

様式第 1 号

会 議 録

会 議 の 名 称	令和 7 年度第 1 回所沢市市民医療センター運営委員会
開 催 日 時	令和 7 年 8 月 6 日（水）午後 7 時 00 分から午後 8 時 15 分まで
開 催 場 所	保健センター 多目的ホール
出 席 者 の 氏 名	赤津 拓彦、塩谷 彰浩、小村 伸朗、辻村 信正、梅本 晶絵、 米川 智裕、織田 智美、齋藤 香代、平野 めぐみ、樺澤 延江、 木下 和也
欠 席 者 の 氏 名	酒見 文人、石丸 由紀、下山 賢一郎、田邊 浩一郎
説明者の職・氏名	なし
議 題	(1) 所沢市市民医療センター経営強化プラン 令和 6 年度実施状況の点検・評価報告について (2) 所沢市市民医療センター再整備事業の進捗状況について (3) その他
会 議 資 料	・ 次第 ・ 席次表 ・ 所沢市市民医療センター運営委員会名簿 ・ 所沢市市民医療センター運営委員会条例 ・ 【資料 1】 所沢市市民医療センター経営強化プラン ・ 【資料 2】 所沢市市民医療センター経営強化プラン 令和 6 年度実施状況点検・評価報告書(案) ・ 【資料 3】 所沢市市民医療センター経営強化プラン 令和 6 年度実施状況点検・評価報告書意見等用紙 ・ 【資料 4】 所沢市市民医療センター再整備事業説明資料
担 当 部 課 名	所沢市市民医療センター 電話 04-2992-1151（事務部総務課） <出席者> センター長 黒木 康富、医務部長 東 賢治、 事務部長 市川 勝也、総務課長 粕谷 憲之、 総務課主幹 武政 直行、総務課主査 近藤 久恵、 総務課主査 相馬 圭、総務課主任 小池 亮一、 総務課主事 梅澤 甘梨

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	■開会 ■会議成立の報告 ■会議の公開・非公開の別 原則として全て公開 ■会議録の記載方法及び確認・署名 発言要旨を記録、発言者名記載せず、確認・署名は会長に一任 ■傍聴者の確認（1 名） ■資料の確認 議題（1）所沢市市民医療センター経営強化プラン令和 6 年度実施状況の点検・評価報告について 【資料 1】所沢市市民医療センター経営強化プラン及び【資料 2】所沢市市民医療センター経営強化プラン令和 6 年度実施状況点検・評価報告書(案)に基づき説明。
会長	自身が勤務する病院について、経営が厳しくなっている。他業種との競争の中で、給食部門が立ち行かなくなる可能性も懸念している。全ての入院患者に食事を提供しなければならないため、給食が出せないと病院の全機能が停止する。このため、これまでは給食業務を委託していたが、今後は全て職員で賄う方向に転換している。市民医療センターの委託料のうち、何が大きな部分を占めているのか、どの業務の金額が上がったのか。
事務局	市民医療センターでは、給食業務について 3 年ごとの委託契約をしている。現在の契約は、令和 6、7、8 年度の 3 年間であり、前契約期間の 3 年間で比べて大きく委託料が上昇している。内容としては、食材費の高騰、管理栄養士・調理師の人手不足により、契約金額が上がっている。 その他の委託については、外来の受付、健診の受付の委託において人件費が上昇している。
会長	無資格の看護補助者を派遣で雇うと、時給 2,000 円近い賃金を支

委員	払うこととなる。診療報酬制度の中で医療を行うことは厳しい状況であるが、公的資金を注入するにあたり、市民の納得が得られるような運営をしていただきたい。 病床利用率の向上はとても良いことであるが、一般的な地域包括ケア病院や療養的な病院の病床利用率はもっと高い。 自身が勤務する病院では、病床利用率 95% で収支が維持できている。 現在、多くの病院が開業しているが、利便性を追求するか、かかりつけ医としての機能を追求するかで、病院の棲み分けができる。健診部門についても、他の病院と競合する中で、接遇を大切にしながら運営を進めていくべきではないか。 経営が厳しさを増している現在、その理由をしっかりと分析する必要がある。インフルエンザの流行が無いと小児科の外来数が減った、経費の増加があったという分析をしているが、要因をさらに突き詰めていただきたい。人件費高騰については、来年以降も続いていく。具体的な改善策を提示してもらいたい。 公立病院であるため市の財源が入るのは当然だが、それにより市民の財政が苦しくなり、ゆくゆくは病院の経営が厳しくなるため、病院の中で出来ることは何かを考え続けていただきたい。 例えば、小児科の深夜急患や休日急患において、レントゲンを撮れないことや検査ができないことが市民の不満となっていると思う。人間ドックの受診者数がコロナ前の数値に戻らない理由、サービスの方法や近隣病院の人間ドックとの違いについて、明確に今後の対応を示していただきたい。
会長	病院にとって入院収益は、大きな影響がある。そのため、病床利用率を限りなく上げられるようにするべきだ。人間ドックにおいては、多くの病院が行っており、価格競争や利便性において情報収集しなければいけない。料金設定については、市が決めた金額は 1 年間を通して同じ金額なのか。
事務局	人間ドックの料金については条例で定められており、改正する場合は、運営委員会に諮り委員の皆様に認めていただき、議会で料金を改定するという流れになる。

会長	タイムラグがあるのはやむを得ないが、常にアンテナを張り、早めに対応できるよう努めてほしい。
委員	福祉の分野でも人材不足は課題となっている。サービスの提供以前に人材がいなかったため提供できないことがある。病床利用率について、昨年度からは少し増えており、人材についても適正な人数を確保しているとのことだが、人材不足により病床を利用できない状況はあるのか。
事務局	医療人材については、内科医師 4 名、小児科医師 4 名の定員を満たしている。看護師についても定員が 33 名であり満たしている。他の臨床検査技師や放射線技師においても定員を満たしている。医療人材が足りず、病床利用率が上がらないということはない。 大腸内視鏡の検査をした際に入院される方がおり、その方々の病床を確保する必要がある。また、病棟の老朽化が進んでおり、使用できない部屋もある。
会長	一般病床について、様式 9 という人員に関する施設基準があるが、現実的でない基準である。基準の 1.5 倍ほどの人員がいないと病床が回らないという認識である。市民医療センターの人員が満たされているというのは、その基準による人数なのか。かろうじて基準を満たす人数では、年休等を全く取れない状態となる。
事務局	職員の必要な休暇は取れるように人数を配置している。看護師 33 人は、外来、健診、内視鏡、病棟を含めた人数であり、病棟では 25 名ほどが勤務している。40 名ほどは入院患者を受入れる体制を組んでいる。
会長	看護補助者は、雇っているか。
事務局	現在 6 名勤務しており、ここで 1 名採用したため、現在の欠員は 1 名となっている。
会長	日本人の看護補助者を募集しても応募が無いのが現状である。 自身が勤務する病院では、タイ、フィリピン及びベトナムの方が勤務している。今後もこの流れは変わらないだろう。市の職員とし

	て外国の方を雇用できるかについて、今後確認する必要がある。
委員	テレビで成功例として取り上げられていた事例であるが、患者にデジタルウォッチをつけることで、人件費の減及び業務の効率化になると放映されていた。
会長	大きなテーマである。自身が勤務する病院では、以前、入院患者の家族から見守りカメラを置きたいという申し出があったが、ケアする側の個人情報もあるため、お断りをした。患者のニーズがあるのであれば変わっていかねばいけないのかもしれない。共生社会を目指し、医療従事者、患者双方に利益のある関係であることが重要な課題である。
	議題（２）所沢市市民医療センター再整備事業の状況について
事務局	【資料 ４】所沢市市民医療センター再整備事業説明資料に基づき説明。
委員	新病院の建設と解体の間、駐車場の利用についてどうなるのか。
事務局	現在、准看護学院の北側の駐車場については、所沢市医師会へ使用貸借で貸している。その駐車場を返していただき、看護専門学校北側の駐車場と一体的に整備し、建設中の臨時的な駐車場とする予定である。敷地内の車路についても広い状態であるため、片側に駐車マスを設けるなど可能な限り敷地内に駐車台数を確保する予定である。しかし、再整備事業中は現在の駐車台数よりは少なくなるため、設計を進め進捗状況に応じた駐車可能台数が分かった段階で、敷地外の民間駐車場を借用することも検討している。
会長	住民説明会での、住民の反応について伺いたい。
事務局	法令に基づく住民説明会はまだ実施していないが、西側にお住まいの方については、日陰の影響があるため戸別訪問を行った。これくらいの影響であれば問題ない、ぜひ再整備を進めてくださいというような意見をいただいた。

委員	再整備事業について、入札の方法や時期などを教えていただきたい。
事務局	現時点での予定となるが、令和 8 年度から半年ほどかけて入札による発注事務を進めていく。現在地については、本来病院を建てられない第一種低層住居専用地域であり、許可を得て建設するための手続きを現在進めている。その進捗状況によって時期がずれる可能性もある。 議題（3）その他
委員	健康診断に行くと、終わった後にお腹が空く。病院選びの際、おいしい食事が提供されている等の情報があるだけでも行こうと思う。そのような工夫があっても良いのではないかな。
委員	人間ドックを受診する上で、検査後の食事が一番気になる。病院によって内容に差がある。そのあたりを含め、近隣の病院の人間ドックの料金、検査内容等を調査し、アピールしてはどうか。今日の会議に出席して、病院経営の大変さが分かった。
委員	人間ドック及び健康診断について、健康についてもっと知ってもらう機会があれば、若い方の受診につながるのではないかな。若い方に多く利用してもらう取組みにより、受診者数を上げるのはどうか。
委員	現状のまま、市民医療センターの医業収支を黒字にすることは不可能である。患者数、支出の割合、今後人件費が上昇する点を踏まえると、今のままの計画では不可能だ。 その根拠として、医業収支の目標が 80%になっている。経常収支は 100%を超えているが、市民の皆さんの力を借りて何とか黒字経営をしていくことになる。 再整備事業の重点項目として、1 年 365 日 24 時間小児初期救急医療を行うとしているのだから、それを小児だけでなく成人の一次救急も実施し、市民に還元するという考え方をしていただきたい。
委員	再整備事業において、コンセプトや軸としているものを教えてい

	ただきたい。
事務局	小児初期救急の対応、次なる感染症に対応できる構造をコンセプトとしている。
委員	壁紙、内装等を、例えば子供向けにする等のテーマをもって工夫してはどうか。 新病院の３階の病棟について、個室率は上がっているのか。
事務局	現在とほぼ変わらない個室率を予定している。
委員	個室が増えると、性別の問題や感染症の対応がしやすくなり稼働率が落ちないため、検討しても良いのではないか。
事務局	第２回運営委員会の開催については、１０月頃を予定している。日時が決まり次第、電子メールで通知を送付する。 以上